

No4304

2004年、娘に連れられ岩崎メンタルクリニック(神奈川県藤沢市)を受診したA子さん(59)は、ギャンブル依存症と診断された。パチンコをやめたいのに、なぜやめることができないのか。

「意志の弱さではなく、病気だからです」

院長の岩崎正人さんは、そう説明する。

発症の仕組みは解明されていないが、ギャンブルが強い興奮状態を引き起こし、ある種の脳内物質が分泌されるなど脳内の変化が起きて、その行為を止められなくなる、との考え方がある。大勝ちすると再び大勝ちを狙い、負ければギャンブルで取り戻そうとする。

依存症になりやすい人は、共通した傾向もあるといふ。岩崎さんのもとを受診する患者には、人付き合いや

シリーズ

こころ



ギャンブル依存症の関連団体・施設

■自助グループ

△GA(ギャンブラーーズ・アノニマス) 全国各地で会合を行う。

ファックス046・263・3781

△キヤマノン 家族・友人が対象。

info@gam-anon.jp

△ヌジュミ 女性専用の通所施設。

電話兼ファックス045・743・5854(月~土、午前9時~午後5時)

■電話相談

△リカバリーサポート・ネットワーク 050・3541・6420(平日午前10~午後4時) パ

チンコ依存問題を抱える患者、家族専用

依存症

③

自己主張が苦手で、「自分には取りえがない」と考えるなど、自己評価が低い人が多い。

①父が暴力を振るうなど家庭内に問題がある②子供をひざに乗せてパチンコを打つなど、ギャンブルへの抵抗感が少ない家庭に育つ③貯金をしないなど経済観念に乏しい――といった点も見られるという。

回復には、精神科医や臨床心理士らによる個別の力が多い。ウンセリングと、当事者同士が集う自助グループの会合(ミーティング)への参加が有効だ。

A子さんも、受診の翌日から毎晩、自助グループの会合に参加した。1回1時間半、ギャンブルにはまつた経緯やこれまでの人生を語り合う。互いの発言に批評が交わされる。最初は恐る恐る会場に足を運んだ。

「ギャンブルに夢中で、大事な約束をすっぽかして友人を失った」「家族の定期預金を勝手に解約してパチンコに使った」

周囲からは、好き勝手にギャンブルを楽しんでいるように思っても、本人は苦しい。一人一人の苦しみに心から共感でき、A子さんも自然に、ヤミ金融に手を出したことを話した。

「仲間」と苦しみ語り合う

半月ほど通

い、回復のための女性専用の宿泊施設に

入った。一軒家で6、7人の依存症の仲間と共同生活を送り、毎日連れだってグループの会合に行く。

1日数回の会合で人の体験を聞くのは、自分自身を見つめ直す作業でもあった。宿泊施設に戻ると、これまでの生活や自分を取り巻く人間関係など、気づいたことをノートに記した。

そして、なぜギャンブル依存症になつたか、理由がわかるようになつてきた。

参加者は本名を明かさず、聞いた話は人に漏らさないルールがあり、みな正直に体験を語っていた。涙声の人もいた。

け入れる。話したくなれば、黙ったままでもいい。

会合は全国各地で、教会や福祉施設を借りて定期的に開かれる。最初は恐る恐る会場に足を運んだ。

「ギャンブルに夢中で、大事な約束をすっぽかして友人を失った」「家族の定期預金を勝手に解約してパ

チンコに使った」

周囲からは、好き勝手に

ギャンブルを楽しんでいる

ようにも思っても、本人は苦

しい。一人一人の苦しみに

心から共感でき、A子さん

も自然に、ヤミ金融に手を

出したことを話した。

周囲からは、好き勝手に

ギャンブルを楽しんでいる

ようにも思っても、本人は苦

しい。一人一人の苦しみに

心から共感でき、A子さん

も自然に、ヤミ金融に手を

出したことを話した。